



2009.7.7  
第139号

発行  
福島県市町村  
教育委員会  
連絡協議会  
北耶麻沼  
福会津

編集  
福島県教育庁  
福会津教育事務所

編集協力  
小・中学校長会

# 「心の原風景」



会津教育事務所  
所長 吉田 尚

あまり漫画を読まない自分ではあるが、西岸良平の「三丁目の夕日」だけは、ほぼ全巻手元にそろえ、疲れた時などにながめると気分も晴れ、元気が出てくる。

この漫画は昭和30年代の夕日町（仮想の町）を舞台にしたものである。漫画の中に、ダイハツミゼット（三輪自動車）やスクーター、メンコやペーゴマ、おままごとなどで遊ぶ子ども達が登場し、自分の幼少時代が思い出され、とても懐かしさを感じる。

先日、母親を連れて私が少年時代を過ごした町を久しぶりに訪ねた。自宅のあったところから自分が通った小学校までの界

限は、当然のことながら随分と様変わりした。よく本の立ち読みをした書店も、あの頃発売された高級鉛筆に目を奪われた文具店も、たまにお小遣いに余裕があるときに食べた揚げたてのコロッケを売るお肉屋さんも、そのほとんどがなくなっていた。また、通学路に多く見られた大きな冷凍倉庫を持つ魚の加工場もそのほとんどが閉鎖されていた。そして何よりも変わってしまったのは、あの頃、休日、町中や路地、空き地には必ず群れていた子どもたちの姿を見つめることができなかつたことだ。

あの頃の子ども達は、休日ともなれば、三角ベースの野球に興じたり、近くの路地でベッタ（メンコ）やゴム跳び、ケンケン等々、いつも群れて遊んでいた。約束などしていなくても、空き地や団地の公園に行けば必ず何人かの友達がおりに、誰もが遊びの仲間に入れたし、遊びの限度を超すと注意をしてくれたり、風揚げや独楽回しなどうまくできないでいると必ず教えてくれたりするどこかのお兄ちゃんがあった。

昭和30年代は決して豊かではなかつたけれど少しずつ暮らしがよくなり始め、自由な空気の中にありながらも、責任や義務についても人々がいい具合にわかまえていた時代ではなかつただろう。人々の心の有様がちょうどバランスがとれていたのかもしれない。

今、心のバランスを極端に崩したために起こる様々な事件や事故が次々と起こっている。昭和30年代は、単なる古き良き時代というだけではなく、今、私たちが失いつつある日本人の心の原風景がそこにはあるのではないだろうか。

## 平成二十一年度 管理関係重点事項

「連携を重視した人事管理」と「各学校の実態に即した実効ある取組みによる教職員事故・学校事故の防止」に努めます。

### 一 人事管理の適正化と学校組織の充実・活性化

- 特色ある学校づくりにつながる人事事務の適正化
- 少人数教育による人事配置を生かした「うつくしまっ子みらいプラン」の充実
- 教職員目標管理制度の活用による意欲と資質の向上

### 二 学校事故、不祥事未然防止

- 教職員の服務・勤務体制の確立と危機管理意識の高揚
- 職務倫理委員会を機能させるとともに、管理職自身が積極的に関わることを
- チェックシート等の活用により、日頃の自分の言動、考え方を振り返り、不祥事防止に対する当事者意識を高めるよう努めること。
- 交通事故の防止
- 速度超過や交通加害事故、酒気帯び運転を未然防止するため、安全運転への声掛けやゆ

- 連携を重視した人事管理
- 各学校の実態に即した実効ある取組みによる教職員事故・学校事故の防止
- 人事管理の適正化と学校組織の充実・活性化
- 特色ある学校づくりにつながる人事事務の適正化
- 少人数教育による人事配置を生かした「うつくしまっ子みらいプラン」の充実
- 教職員目標管理制度の活用による意欲と資質の向上
- 管理訪問等を通しての学校経営の支援
- 学校事故、不祥事未然防止
- 教職員の服務・勤務体制の確立と危機管理意識の高揚
- 職務倫理委員会を機能させるとともに、管理職自身が積極的に関わることを
- チェックシート等の活用により、日頃の自分の言動、考え方を振り返り、不祥事防止に対する当事者意識を高めるよう努めること。
- 交通事故の防止
- 速度超過や交通加害事故、酒気帯び運転を未然防止するため、安全運転への声掛けやゆ

### 三 学校火災・盗難事故の防止

- 校舎内外の整理整頓、校舎周辺の可燃物の撤去を徹底すること。
- 現金を校内管理せず、会計事務の適正な執行とチェック体制を徹底すること。
- 施設設備の安全管理
- 防火設備等の操作方法と係分担任等を全教職員に周知すること。
- 学校プールの管理運営について、夏季休業中の指導も含め、事故の未然防止に努めること。
- 個人情報等の適正管理
- 各種情報の管理について内規の共通理解を図り、流出や紛失・盗難を防止すること。

### 四 個人情報等の適正管理

- 各種情報の管理について内規の共通理解を図り、流出や紛失・盗難を防止すること。

### 五 個人情報等の適正管理

- 各種情報の管理について内規の共通理解を図り、流出や紛失・盗難を防止すること。

### 六 個人情報等の適正管理

- 各種情報の管理について内規の共通理解を図り、流出や紛失・盗難を防止すること。

とりある運転等に一層心がけること。  
● 負傷事故の防止  
● 事前の準備運動や周囲の環境に十分配慮すること。  
○ わいせつ・セクハラ、体罰等不祥事の防止  
● 教育公務員としての使命感と倫理観の高揚を図るよう常に修養に努めること。  
● 互いに何でも相談し合える風通しのよい職場環境づくりに努めること。  
○ 学校火災・盗難事故の防止  
● 校舎内外の整理整頓、校舎周辺の可燃物の撤去を徹底すること。  
● 現金を校内管理せず、会計事務の適正な執行とチェック体制を徹底すること。  
● 施設設備の安全管理  
● 防火設備等の操作方法と係分担任等を全教職員に周知すること。  
● 学校プールの管理運営について、夏季休業中の指導も含め、事故の未然防止に努めること。  
○ 個人情報等の適正管理  
● 各種情報の管理について内規の共通理解を図り、流出や紛失・盗難を防止すること。

## ふるさとへの思い

三島町教育委員会 教育長 北館長一

今年度4月より教育行政に携わっています。

わが町の最大の課題は、過疎・少子高齢化の進行です。高度経済成長期がもたらした向都離村現象は、山村を直撃しました。誰も物が豊かさ・利便性の風潮の渦中に投げ出されました。幸い小生は母校の学校に勤め、子どもたち・保護者・地域の方々との触れ合いにより、このふるさとにいたい・いなければならないと決意することができました。二十数年前のことでした。

「子どもが住み着くような三島を創ること」「子どもが帰ってきたくような三島を創ること」が一番の思いです。三島は現在、さいの神が国より重要無形民俗文化財の指定を受けたことを機に、文化庁文化財総合的把握モデル事業に取り組んで



います。経済においても教育においても、都市と山村の格差は現実としてあります。その格差を埋めるには、心の豊かさの視点で心安らく「ふるさと」に根ざした生き方を考えることです。それは正しく歴史・文化を見つめる視点です。人づくりこそが国づくりの根幹です。子どもたちの育成にも、調和のとれた知・徳・体の育成が大切です。三島は豊かな自然に恵まれています。温かな人間関係が十分に残っています。歴史・文化（文化財）へのさまざまな係わりは、地域への誇りを醸し出しアイデンティティを呼び起こし、地域コミュニティを育みます。良さを最大限に生かすことです。幸い、中央から地方への時代、全体的な「国づくりの時代」から、地域の個別の創意工夫による「ふるさとづくりの時代」です。

過疎・少子高齢化をどう受け止めるか、厳しい諸般の事情を覚悟の上で、三島町の将来、そこに生きる子どもたちのため、尽力していきたい。その思いを強くしている今日この頃です。

## 我がまちからの情報発信

会津若松市教育委員会

川南小学校は、会津若松市の西に位置し、全校生137名が恵まれた自然環境の中で、地域や保護者の方々に見守られながら生き生きと学校生活を送っている。特に、地域性を生かし、学校経営ブランドデザインに栽培活動を通じた食育の充実を位置づけている。そのような環境のもと保護者、祖父母、地域の方々に指導を受け児童たちが約0.8aの学校田でコシヒカリの栽培、約1aの学校畑で里芋、サツマイモ、ジャガイモ、トマト、キュウリ、カボチャ、ネギ、スイカ、ウリ等を各学年で栽培している。このような体験活動のもと、食に関わる人々への感謝の気持ちや地域産物のよさを理解することを通して、児童たちに郷土愛の育成を図ることを目標に計画的に活動を実践している。今年度も、5月14日に高学年が保護者、祖父母の方に指導を受け、学校田で田植えを実施した。

現在は機械化が進み、普段子どもたちは裸足で田に入る経験が無いことから、ぬかるんだ土でかがんで植えることに悪戦苦闘していたが、協力者の指導のおかげで、短時間で植えることができた。

その後、指導して頂いた方との交流会（茶話会）を実施し、昔の田植えの苦勞や今後の手入れにつ

いての話を聞いたり、苗をまっすぐに植えることができたとお褒めの言葉をもらって、子どもたちも満足するなど、交流を深めることができた。

子どもたちは、今後も田と畑の管理を続け、10月の学習発表会時には、できた作物を調理し、協力して頂いた方々にごちそうする計画を立てている。これからも学校をあげて、地域、保護者の方々の協力を得ながら、栽培活動を通して、食に関わる人々への感謝や地域産物への理解を深め、郷土北会津町を愛する子どもたちの育成を目指していく。



# 作品と指導

工作

『大地文化 世界のなつこ』



西会津町立尾野本小学校  
1年 江川 満里愛

粘土を丸めたり、のばしたりして遊ぶ中から、自分が思いついたものの発想を広げて楽しく作るようにしました。大きさのちがう形をたくさん作って、積み重ねるなど、自分の思いや工夫がよく表現されていると思います。

指導者 齋藤 彰子

習字

『流星』



北会津中 山内智奈美  
3年 山内 智奈美

行書における点画の連続に注意して書かれています。行書になると流れがちになる始筆や中心線がしっかりしているので、安定感ある作品になりました。氏名が大変上手で、それが作品全体をさらに引き立たせています。

指導者 杉山 雅孝

絵

『わたしの天気よほつ』



柳津町立西山小学校  
2年 菊地 輝多

さまざまな天気を思い起こさせながら、自分の気持ちを素直に表現できるように指導しました。自分なりの感覚を色や形にのせ、感じるまま伸び伸びと表現していました。

指導者 酒井 文

# 私の抱負

四季を彩る写真



北塩原村立 裏磐梯中学校  
校長 土田 宏

玄関ホールに展示された裏磐梯の四季の写真は、今まで気づかなかった自然の美しさを感じるとともに伝えてくれます。

本校は全校生三十五名の小規模校であり、授業などでは生徒一人ひとりがよく見えていると思いがちです。しかし、それは私が地域の自然を目にしていたように、漫然と眺めていたのに過ぎないのかもしれない。

写真家のように、自然の美しさを最大限に生かす見方をしているか。美しさの瞬間を捉えるよう準備し、その瞬間をじっと待てるか。

生徒のよさを最大限に生かすため、私自身が生徒や教職員、そして地域を見る(診る・視る)目を養っていく必要があると強く感じています。雄大な自然を写し出す一枚の写真のように。

新任教頭として



昭和村立 昭和小学校  
教頭 星 潔

四月一日。緊張の中の首任。「教頭先生。」と声をかけられても、自分のことだと気付かない。学校のことも仕事のこととも、何もかも分からないままの入学式準備。周りの先生方に助けられて、何とか無事に入学式を迎えることができた。

四月六日。子ども達との出会い。明るく元気な昭和っ子の「おはようございます。」の声を聞くと、こちらも自然に笑顔になる。子どもたちの笑顔に癒される。

新任教頭として二ヶ月が過ぎたが、先生方、保護者や地域の皆様、そして子ども達に支えられて、何とか職務をこなしている。これからは、子ども達、先生方、地域の方々が、ピカピカの笑顔で日々を過ごせることを第一に考え、教頭としての仕事をしていきたい。

背中を押してあげられる教師に



会津若松市立 城西小学校  
教諭 鈴木由香

会津への赴任が決まってから城西小学校に着任するまで、一人知らない土地でやっていくのだからかと不安で胸がいっぱいでした。しかし、明るく元気いっぱいの子と先生と、優しく接してくださる先生方に支えられ、充実した二ヶ月が経ちました。

私は、自分のやりたいこと、夢に向かって進もうとしている時の子どもたちの笑顔や表情が大好きです。その表情を生かすためにするも教師次第です。その責任の大きさを胸に、目の前にいる子ども達の心を私自身がしっかりと受け止めます。子ども達の支えとなりたくいです。そして、各々に寄り添い、共に考え、共に悩み、あたたかな手で背中を押してあげられる教師を目指して、努力を重ねていきます。